

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 8 日現在

機関番号：16102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2014

課題番号：22520471

研究課題名(和文)国語史資料・学習史資料開発のための近世地方寺院伝存文献の調査研究

研究課題名(英文) A research on modern age documents existing in local temples to develop documentary resources for the study of history of Japanese language and the study of learning trajectory

研究代表者

原 卓志 (HARA, Takuji)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：00173063

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)： 地方語史研究、および近世僧侶の学習実態の解明のために有益な資料を開発することを目的とし、徳島県真言宗寺院所蔵の文献について悉皆調査を行い、所蔵文献目録・索引を作成した。それに基づいて、以下の研究を行った。

聞き書きなどに地方語史資料として有益な文献が存在することを確認した。発見した文献については、その言語事象を考察し、全文を翻刻し公開した。僧侶個人の蔵書目録、書写・所持本などを用いて、僧侶個人の学習史の描出を試みた。また、教育機関としての寺院の自立と発展についての研究も可能であることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)： This study aimed at developing useful documentary resources for the study of the history of local language and the study of the actual conditions of learning by modern Buddhist monks. A complete survey of literature owned by Shin-gon-ji sect temples in Tokushima Prefecture was conducted and a bibliography with index was developed. Based on the survey, the following research results were obtained. It was confirmed that some dictation documents serve as useful documentary resources to study the history of local language. The documents were linguistically examined and the entire texts were reproduced to share. A learning trajectory of a Buddhist monk was revealed by examination of a catalogue of owned documents, copied and owned documents. The documentary resources examined showed it possible to research how temples had developed as autonomous education institutions.

研究分野：国語学(国語史)

キーワード：国語学 教育学 学習史 学習記録 地方語史 庶民教育 地方寺院

## 1. 研究開始当初の背景

本研究以前に、徳島県内の公共図書館や寺院において近世の地方語(地方における口頭語)研究資料としての角筆文献発掘調査を行い、多くの角筆文献を見出した。調査を進めるうちに、寺院所蔵の文献には多くの角筆文献のあることが明らかになったが、調査し得たのは県内の一部の寺院に止まり、隣県の香川県における寺院調査は手つかずの状態を残された。また、角筆文献の他に、僧侶による講伝の聞き書きなどにも当時の地方語を知る上で貴重な資料となるものが含まれることが分かった。さらに、この調査・研究をとおして、当時の学習課程・学習方法と、使用する筆記具・書入れ内容とが密接に関係しているということが明らかになった〔原卓志「近世地方寺院における僧侶の修学と角筆使用」(「訓点語と訓点資料」第112輯、2004年)〕。

これらの研究を通して、様々な書入れを含んだ寺院伝存の文献を、当時の僧侶の学習記録として位置付けることによって、近世地方寺院における僧侶の学習実態を明らかにすることが可能になると構想するに至った。

## 2. 研究の目的

地方の仏教寺院には、各寺院の宗派に関わる経典やその注釈書などの仏書だけに止まらず、四書五経・漢詩文集などの漢籍、仏教説話集・随筆などの国書にいたるまで、様々なジャンルにわたる近世の板本や写本が残されている。板本の内、仏書や漢籍の多くには、毛筆による朱・墨の書入れ、角筆による書入れが施されており、写本には、各地で開催された講伝の聞き書きが含まれるなど、当時の僧侶が遺した具体的な学習記録として貴重な資料である。しかし、それらの多くは、ほとんど研究の対象とはされず、その価値が顧みられることなく放置されてきた。

本研究は、四国の真言宗寺院を取り上げ、その中でも、講伝(講義)などで関係が深かったと考えられる東四国二県(徳島県・香川県)の寺院に限定し、そこに伝存された近世の諸文献(版本・写本)を対象として、寺院ごとに悉皆調査を行い、伝存文献目録を作成する。これを基に、文献の種類・書入れに用いた筆記具・書入れ内容について整理し、角筆文献や墨書書入れ、聞き書きなどから当時の地方語資料となりうる文献を発掘し、僧侶の学習課程との関連を見通しつつ語学的な研究を行う。それとともに、それら全体を僧侶の学習用教科書・学習記録として位置付け、学習史研究資料としての価値を付与することをおして、近世地方寺院における僧侶の修学実態について明らかにすることを目的とする。

## 3. 研究の方法

### (1) 伝存文献の悉皆調査

大量の江戸時代以降の典籍・聖教を蔵して

いる真言宗寺院を選び出し、寺院ごとに悉皆調査を行う。ここでは、奥書・所持者の署名・印記を含めた書誌情報のほかに、本文への書き入れ情報についても調査し、調書を作成するとともに、写真撮影を行う。

### (2) 所蔵文献目録・索引の作成

悉皆調査によって作成した調書に基づいて、寺院ごとの所蔵文献目録を作成し、所蔵寺院の許諾を得た上で、紙媒体にて公開する。また、鳴門教育大学リポジトリをとおして、ウェブ上に公開する。

上記文献目録活用のために、文献索引、人名索引、寺社名索引を作成し、紙媒体で公開するとともに、ウェブ上に公開する。

### (3) 研究成果の発表

調査を通して得られた知見を論文にまとめて、研究紀要などに発表する。また、重要な資料については、翻刻して研究紀要などに発表する。

## 4. 研究成果

### (1) 臨江山地蔵寺所蔵文献の調査研究

臨江山地蔵寺(徳島県阿南市)において、所蔵文献の悉皆調査を行い、『臨江山地蔵寺所蔵文献目録』(私家版、全532頁)を刊行した(2011年)。またこの目録を補訂し、「文献索引」「人名索引」「寺名・文庫名索引」を付した『臨江山地蔵寺所蔵文献索引〔補訂版〕』(私家版、全621頁)を刊行した(2011年)。本補訂版は、鳴門教育大学リポジトリを通してウェブ上に公開した。

臨江山地蔵寺調査で発見した『孟子聞録』を取り上げ、本書が僧侶教育における『孟子』講義の聞き書きであることを明らかにした。その上で、同書に現れた言語事象と現代の徳島言葉に特徴的な言語事象との共通点を指摘し、同書を江戸時代後期の徳島言葉の資料として位置づけた。また、寺院伝存文献の悉皆調査によって国語史資料として活用できる学習記録群開発の可能性について考察した(原卓志「臨江山地蔵寺蔵『孟子聞録』について―江戸後期の徳島ことばの資料―」鳴門教育大学国語教育学会、2010年、原卓志「地方語史研究資料として見た学習記録―臨江山地蔵寺蔵『孟子聞録』を例として―」鳴門教育大学研究紀要第26巻、2011年)。さらに、『孟子聞録』の地方語史研究資料としての重要性を考慮して、全文を翻刻して発表した(原卓志「【翻刻】臨江山地蔵寺蔵『孟子聞録』」鳴門教育大学研究紀要第29巻、2014年)。

また、同調査で発見された『顕密書籍目録』(延享元年~宝暦二年書写)を取り上げ、本書に著録された文献と、臨江山現存文献とを比較対照する作業を通して、『顕密書籍目録』作成の意図を考察した。その結果、本書は、その作成者である実道と覚幢それぞれの個人蔵書を著録したものであることが明らかになった。そして、二人の僧侶の学習総体を

俯瞰することのできる貴重な資料であることが分かった(原卓志「臨江山地藏寺蔵『顕密書籍目録』について」鳴門教育大学研究紀要第27巻、2012年)。

#### (2) 宝壺山願勝寺所蔵文献の調査研究

宝壺山願勝寺(徳島県美馬市)において、所蔵文献の悉皆調査を行い、『宝壺山願勝寺所蔵文献目録』(私家版、全473頁)を刊行し(2012年)、鳴門教育大学リポジトリを通してウェブ上に公開した。また本目録について、「所蔵文献索引」「人名索引」「寺社名索引」を作成し、『宝壺山願勝寺所蔵文献目録索引編』(私家版、全99頁)として刊行し(2012年)、鳴門教育大学リポジトリを通して公開した。

宝壺山願勝寺伝存文献を資料として、宝壺山歴代住職の内から比較的多くの写本を残した三人(義剛・快明・快淵)を取り上げ、その聖教書写活動について、年次を追ってその場所や背景について考察し、三人の僧侶の修学実態の一端を明らかにした。また、書写した聖教の内容を比較し、宝壺山における文献の蓄積が、その後の僧侶の修学に影響を与えることを述べた(原卓志「宝壺山願勝寺における僧侶の修学と書写・所持文献 義剛上人・快明上人・快淵上人を取り上げて」鳴門教育大学研究紀要第28巻、2013年)。

#### (3) 国伝山地蔵寺所蔵文献の調査研究

国伝山地蔵寺(徳島県小松島市)において、所蔵文献の悉皆調査を行い、『国伝山宝珠院地蔵寺所蔵文献目録〔上冊〕』(私家版、全480頁)、『国伝山宝珠院地蔵寺所蔵文献目録〔下冊〕』(私家版、全472頁)を刊行し(上冊2013年、下冊2014年)、鳴門教育大学リポジトリを通してウェブ上に公開した。また本目録について、「所蔵文献索引」「人名索引」「寺社名索引」を作成し、「所蔵文献目録追補」とともに『国伝山宝珠院地蔵寺所蔵文献目録〔索引〕』(私家版、全210頁)として刊行し(2015年)、鳴門教育大学リポジトリを通して公開した。

国伝山伝存の印信類や伝法灌頂受者名録を資料として、伝法灌頂の開壇年時、開壇道場の場所、大阿闍梨の所属などを分析し、国伝山が僧侶教育のための教育機関としてどのように発展し、自立していったのかを明らかにした(原卓志「国伝山地蔵寺における「伝法灌頂」について」鳴門教育大学研究紀要第30巻、2015年)。

#### (4) その他

寺院・僧侶における庶民教育をテーマとし、徳島県真言宗寺院という特定地域・宗派における教育活動実態を相対化してとらえることを目的とした発展的な研究として、伊予国の真宗寺院における庶民教育の考察を行った。その結果、伊予国の真宗寺院は、他宗派寺院に比して、より積極的に庶民教育に関与

していることが明らかになった。また、寺院という宗教空間と庶民教育(人間形成)との関係解明という新たな課題を提起した(梶井一暁「近世僧侶の庶民教育へのかかわり 伊予国の手習塾を中心に」宗教研究第85巻2輯、2011年)。さらに、各宗派寺院における「寺子屋」についての再評価を行った(梶井一暁「寺院が支えてきた「寺子屋」を再評価するために(1)」寺門興隆第14巻6号、2012、「寺院が支えてきた「寺子屋」を再評価するために(2)」寺門興隆第14巻7号、2012)。

また、岐阜県内の真宗寺院伝存の文献調査を実施し、その結果に基づいて近世の地方寺院を地域の教育と文化の拠点として位置づけることを試みた(梶井一暁「地域の教育・文化拠点としての近世寺院 飛騨国大野郡山田村の浄覚寺を事例として」教育史学会、2012年)。

このほかに、無尽山弘誓寺(徳島県徳島市)では、明治初期の中学林関係文書の調査・写真撮影を行った。また、無尽山地蔵寺(徳島県板野郡)における所蔵文献の悉皆調査を継続している。

#### (5) 課題

各寺院における悉皆調査は、時間と手間を要するものであるが、新たな地方語史研究資料の発見につながるものであるとともに、各寺院所属の僧侶個人々の修学実態、各寺院における僧侶教育・庶民教育の実態を解明する上で基礎的・不可欠の研究であることは明らかである。

当初計画では、香川県寺院についても調査研究を行う予定であったが、諸般の事情で断念せざるを得なかった。今後も、徳島県寺院の調査とともに、香川県寺院やその他の寺院を含めて、地道にかつ着実に調査研究を進めていくことが必要である。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計8件)

原卓志、国伝山地蔵寺における「伝法灌頂」について、鳴門教育大学研究紀要、査読無、30巻、2015、266-287、鳴門教育大学リポジトリ

<http://www.naruto-u.ac.jp/repository/metadata/669>

原卓志、【翻刻】臨江山地藏寺蔵『孟子聞録』、鳴門教育大学研究紀要、査読無、29巻、2014、215-236、鳴門教育大学リポジトリ

<http://www.naruto-u.ac.jp/repository/metadata/524>

原卓志、寶壺山願勝寺における僧侶の修学と書写・所持文献 義剛上人・快明上人・快淵上人を取り上げて、鳴門教育大学研究紀要、査読無、28巻、2013、328-342、鳴門教育大学リポジトリ

<http://www.naruto-u.ac.jp/repository/metadata/475>

梶井 一暎、寺院が支えてきた「寺子屋」を再評価するために(2)、寺門興隆、査読無、14巻7号、2012、97 103

梶井 一暎、寺院が支えてきた「寺子屋」を再評価するために(1)、寺門興隆、査読無、14巻6号、2012、94 101

原 卓志、臨江山地藏寺蔵『顕密書籍目録』について、鳴門教育大学研究紀要、査読無、27巻、2012、199 214、鳴門教育大学リポジトリ

<http://www.naruto-u.ac.jp/repository/metadata/430>

梶井 一暎、近世僧侶の庶民教育へのかかわり 伊予国の手習塾を中心に、宗教研究、査読有、85巻2輯、2011、165 192

原 卓志、地方語史研究資料として見た学習記録 臨江山地藏寺蔵『孟子聞録』を例として、鳴門教育大学研究紀要、査読無、26巻、2011、221 242、鳴門教育大学リポジトリ

<http://www.naruto-u.ac.jp/repository/metadata/361>

#### 〔学会発表〕(計2件)

梶井 一暎、地域の教育・文化拠点としての近世寺院 飛騨国大野郡山田村の淨覚寺を事例として、教育史学会、2012年9月23日、お茶の水大学(東京都・文京区)

原 卓志、臨江山地藏寺蔵『孟子聞録』について 江戸後期の徳島ことばの資料、鳴門教育大学国語教育学会、2010年8月24日、鳴門教育大学(徳島県・鳴門市)

#### 〔その他〕

原卓志、梶井一暎、平川恵実子、私家版、国伝山宝珠院地藏寺所蔵文献目録〔索引〕、2015、210、鳴門教育大学リポジトリ

<http://www.naruto-u.ac.jp/repository/metadata/796>

原卓志、梶井一暎、平川恵実子、私家版、国伝山宝珠院地藏寺所蔵文献目録〔下冊〕、2014、472、鳴門教育大学リポジトリ

<http://www.naruto-u.ac.jp/repository/metadata/503>

原卓志、梶井一暎、平川恵実子、私家版、国伝山宝珠院地藏寺所蔵文献目録〔上冊〕、2013、480、鳴門教育大学リポジトリ

<http://www.naruto-u.ac.jp/repository/metadata/502>

原卓志、梶井一暎、平川恵実子、私家版、宝壺山願勝寺所蔵文献目録索引編、2012、99、鳴門教育大学リポジトリ

<http://www.naruto-u.ac.jp/repository/metadata/448>

原卓志、梶井一暎、平川恵実子、私家版、宝壺山願勝寺所蔵文献目録、2012、473、

鳴門教育大学リポジトリ

<http://www.naruto-u.ac.jp/repository/metadata/447>

原卓志、梶井一暎、私家版、臨江山地藏寺所蔵文献目録〔補訂版〕、2011、621、鳴門教育大学リポジトリ

<http://www.naruto-u.ac.jp/repository/metadata/374>

原卓志、梶井一暎、私家版、臨江山地藏寺所蔵文献目録、2011、532、鳴門教育大学リポジトリ

<http://www.naruto-u.ac.jp/repository/metadata/796>

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

原 卓志 (HARA, Takuji)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：00173063

##### (2) 研究分担者

梶井 一暎 (KAJII, Kazuaki)

岡山大学・教育学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：60342094

##### (3) 研究協力者

平川 恵実子 (HIRAKAWA, Emiko)

四国大学・非常勤講師